

地域医療連携だより

かまんざ

内視鏡センターの 機器を最新の設備に更新

| 新年のごあいさつ…2

院長 小林 裕

地域医療連携・入退院支援室 室長 副院長 魚嶋 伸彦

| 特集

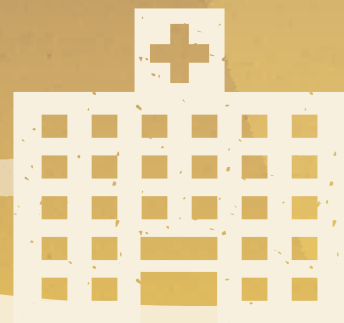
内視鏡センターの機器を一新 より苦痛が少なく、詳細な診断が可能に…3

| Red Crossニュース

スクラムを組む医療従事者たちVol.3 嚥下サポートチーム…4

| トピックス…6

地域医療連携システム「メディマップ」を導入しました
症例検討会を実施しました



当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係



075-212-6186

平日 8:30~20:30
土曜日 9:00~13:00

新年のごあいさつ

ウィズコロナの診療体制を構築し、地域中核病院の役割を果たしていきます



院長 小林 裕

新年あけましておめでとうございます。皆様には2022年、よいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染が発生して2年近くになりましたが、ワクチン接種がかなり浸透し、原稿を書いている12月中旬は非常に落ち着いた状況です。政府の水際対策が奏功し、オミクロン株の市中感染は今のところ報道されていませんが、未だ不透明で、慎重な観察が必要です。毒性は低下している可能性が言及されていますが、感染力は非常に強く、極短時間で蔓延する可能性が考えられ心配です。基本的な感染予防対策、マスク、手消毒、三密回避を再度強く意識しながら、診療にあたりたいと思います。

さて、当院は2020年度から現在までは新型コロナウイルス感染症の対応に勢力を割いてきましたが、それ以外の救急や一般診療も一部を除き極力制限せずに頑張ってきました。また、院内で職員あるいは入院患者さんに新型コロナウイルス陽性者を単発で認めたことはありましたが、それ以上の広がりを見せることはなく、職員一同の感染予防意識の高さを誇らしく思うとともに、関連医療機関のみなさまのご協力の賜物と感謝しています。

ところで、2020年のがん診断は例年の約9割とのことで、新型コロナウイルス感染症が一般医療に及ぼした影響が懸念されます。今後は、新型コロナウイルス感染症の診療は勿論ですが、ウィズコロナでの一般生活様式の変化を考慮しながら、一般診療のありようも再構築が必要かと思っています。

今後も高度急性期および急性期病院として、①救急医療、②がん診療、③特殊専門医療を3本柱に、地域中核病院の役割を果たしていく覚悟です。当院の理念である「歩み入る人にやすらぎを 帰りゆく人に幸せを」を達成するために、「安全で質の高い医療を継続して提供」し、みなさんと共に地域医療に貢献したいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。

懇話会や検討会の実施で、地域連携を深めていきます

2022年の年始にあたりご挨拶申し上げます。昨年はコロナ禍で厳しい医療情勢にも関わらず、地域の先生方からは多くのご紹介をいただきました。誠にありがとうございました。また2021年7月15日(木)に多数の先生方にご参集いただき開催いたしました「病病・病診連携懇話会」においては、前方および後方医療連携それぞれのお立場からご講演いただき、貴重なご意見をいただきました。その際にご指摘いただきました課題を踏まえ、2022年はさらに当院の機能を充実させたいと考えます。

まずは返書の充実など院内での基本的な業務の改善を図るとともに、紹介不応需をできる限りゼロにすることを目標に施策を講じてまいります。さらに地域の先生方との情報共有の取り組みとして、各医師会様との勉強会を企画し、第1弾として2021年12月9日(木)に上京東部医師会様との症例検討会を開催いたしました。当日はご紹介症例の診療経過、当院の取り組み、最新の医療情報を提示させていただくとともに、紹介のタイミングなどに関してご出席いただきました先生方と、充実したディスカッションを交わすことができました。第2弾は本年1月29日(土)に右京医師会様と開催予定です。

今後このような症例検討会を通じて地域の先生方と顔の見える密な連携を図りたいと考えております。また、昨今多くの方々が利用されておられますSNSを通じて、当院が実施している最新医療を積極的に発信していきたいと考えています。

以上のような取り組みを通して本年は地域連携をさらに深めさせていただきたく存じます。これまで以上にご指導・ご支援をいただきますよう何卒よろしく願い申し上げます。



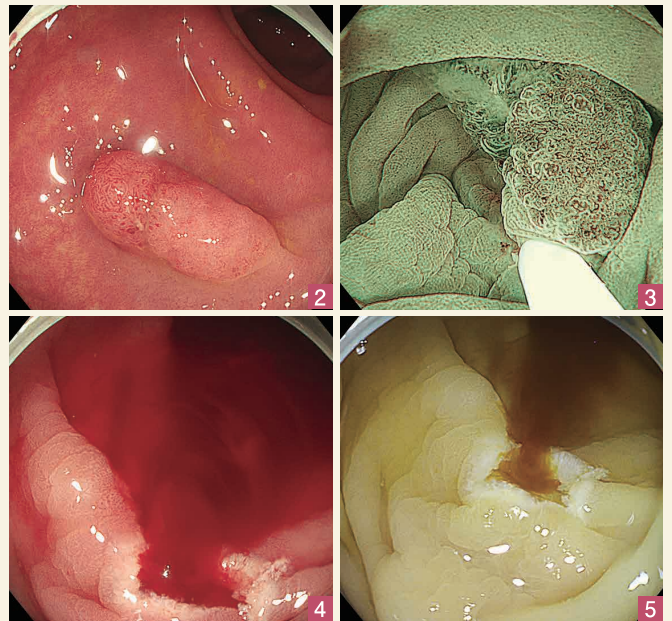
地域医療連携
入退院支援室 室長
副院長 魚嶋 伸彦

内視鏡センターの機器を一新 より苦痛が少なく、詳細な診断が可能に

2021年9月に、内視鏡センター全9部屋の内視鏡機器が最新の設備に更新されました。スクリーニング目的に使用する上部消化管内視鏡(胃カメラ)は径5.4mmの極めて細い内視鏡で、より苦痛の少ない検査が可能となりました。

4Kハイビジョン対応の拡大スコープを導入し、さまざまな画像強調観察を併用した詳細な診断が可能です。出血の際には血液が黄色に描出され、出血点の診断を容易にする機能が搭載されたり、超音波内視鏡では造影剤を使用した詳細な診断ができたりするなど、内視鏡による診断治療の可能性を広げてくれる新たな機能が加わりました。

内視鏡センターでは、これらの機器を使用し年間約1万5,000件の内視鏡検査および治療を行っています。安全かつ適正に最新の内視鏡機器を使用することで患者の皆さまの健康に貢献できるよう努めております。



2 3 4 5 大腸ポリープの内視鏡治療。治療後の出血点が画像強調機能で黄色く描出され、出血点の診断が容易になった

1 導入した上部消化管汎用スコープ
(オリンパス株式会社製)

嚥下サポートチーム

(Swallowing Support Team : SST)



「口から食べること」の喜びと QOL向上を徹底して追求していきます

SSTの役割

救命センターに搬入され一命をとりとめた患者さん、大きな手術を乗り越えたあとの患者さんやご高齢の入院患者さんの中には、嚥下障がいによって窒息や肺炎を起こし、口からの食事が困難となっている方が増えています。

SSTでは、そういった各診療科医師のみでは対応困難な嚥下障がい患者さんに対し速やかに評価を行い、多職種チームにて治療計画を立てて治療的介入を行います。治療の中心は嚥下リハビリテーションですが、多くの方が同時に栄養障がいを発症しており、リハビリに必要な栄養療法をNSTと連携しながら提供していきます。

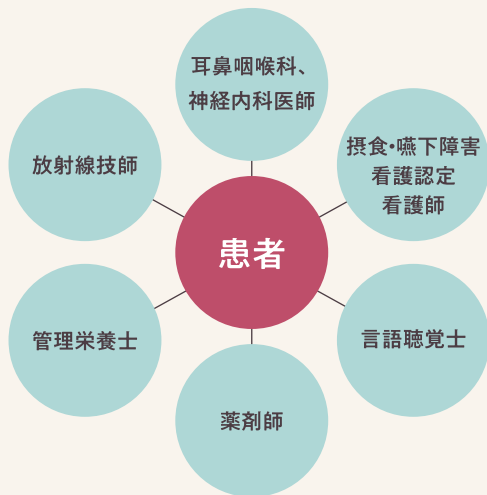
具体的な治療内容

比較的若年の患者さんに関しては、積極的にリハビリを行うことで改善が期待できます。より重度の患者さんには、残存する嚥下機能を生かして経口摂食を目指す嚥下機能改善手術や、誤嚥防止術の適応があります。当院の気管食道外科では、多様な嚥下手術を数多く行っており、口から食事をしたいと考える患者さんの要望に可能な限り対応しております。

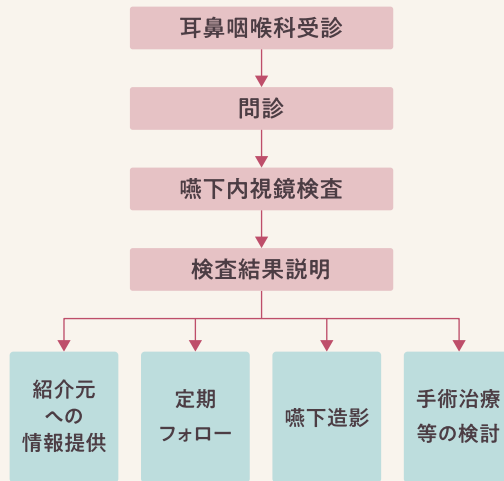
また高齢の患者さんに関しては、原疾患もさることながらフレイルやサルコペニア、認知機能の低下も大きな問題となります。臨床倫理的な考えのもと、患者さん本人の真の意向を尊重して多職種による治療方針の提供を心掛けています。主に栄養改善療法をベースとし、可能な限り嚥下リハビリを行っていきませんが、回復期リハビリ施設への転院や患者さん、ご家族の意向を尊重した経口摂食、さらには看取りの医療を見据えた対応も考慮してまいります。

当院では、院内の多職種と連携し、職員がチーム一丸となって患者さんに最適な医療を提供しています。
このコーナーではリレー形式で各部・室の現状について語っていただきます。

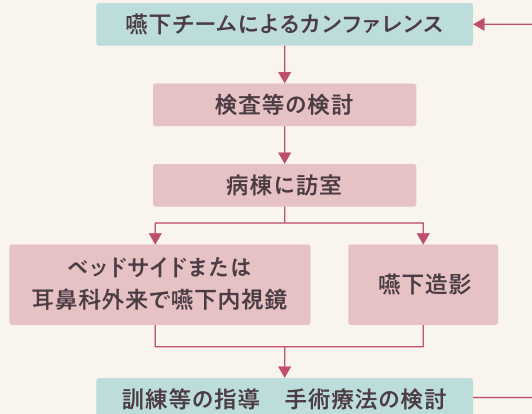
嚥下チームの構成



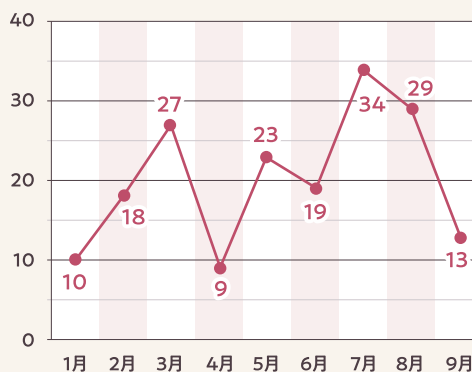
外来受診の流れ



入院中の嚥下回診の流れ



嚥下回診対象者数の推移(2021年1月から9月)



今後に向けて

当院のSSTは発足後1年足らずのチームであり、今後の活動は発展次第ではありますが、地域の先生方との連携、知識を深めるための合同カンファレンス開催や早期介入、退院後のモニタリングなど、急性期病院の嚥下診療に求められるクオリティーをさらに高めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

(耳鼻咽喉科・気管食道外科 部長 内田 真哉)

嚥下障がい患者さんのご紹介について

外来への患者さんは、**耳鼻咽喉科新患外来**へ随時ご紹介ください。火曜担当の内田医師、木曜担当の村井医師は、日本嚥下医学会認定の嚥下相談医です。

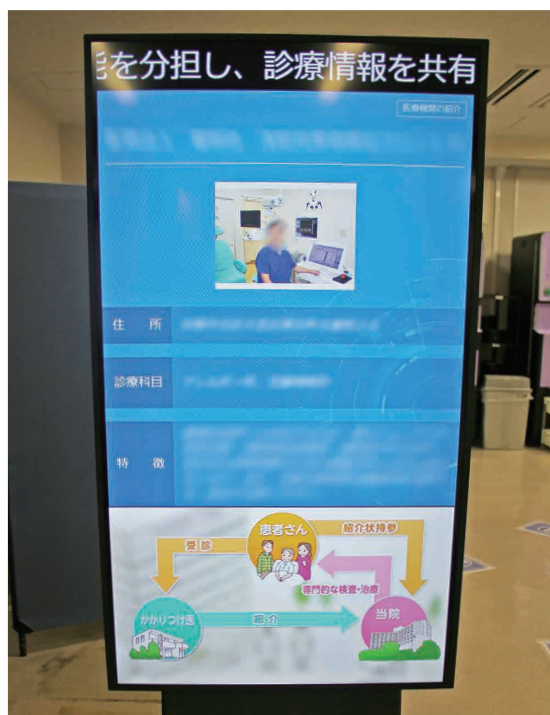
入院中で転院をご希望の患者さんについては、**地域医療連携室**を通じてご紹介をお願い申し上げます。

地域医療連携システム「メディマップ」を導入しました

2021年10月1日(金)より、医療機関との連携強化および信頼性の向上をより一層高めることを目的として、地域医療連携システム「メディマップ」を導入しました。

本システムは、登録医に絞った紹介や患者さんの希望(疾患・診療内容)に沿う医療機関を案内することができるなど、患者サービス向上にもつながるシステムです。また、導入に伴い当院の登録医療機関(656施設)のうち、掲載を希望された施設を対象に、当院B棟1階かかりつけサポートセンター横に設置しております院内デジタルサイネージにて、登録医療機関のご紹介も行っております。

今後も地域の医療機関とより良い連携ができるように、さまざまな取り組みを地域医療連携室から発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



症例検討会を実施しました

2021年12月9日(木)に「上京東部医師会症例検討会」を実施しました。



「慢性心房細動に合併した急性下肢動脈閉塞症の一例」
循環器内科 桐井 陽祐



「徐々に貧血が進行し、全身倦怠感・体重減少・動悸を認めた一例」
糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科 市川 貴博

次回開催のお知らせ

- 2022年1月29日(土)
右京医師会合同症例検討会
- 2022年2月24日(木)
2021年度救命救急センター
地域医療連携懇話会(仮)

よろしく
お願いいたします♪

